

## 6 社会保障制度に関する事項

### (1) 社会保障給付と負担(Q34)

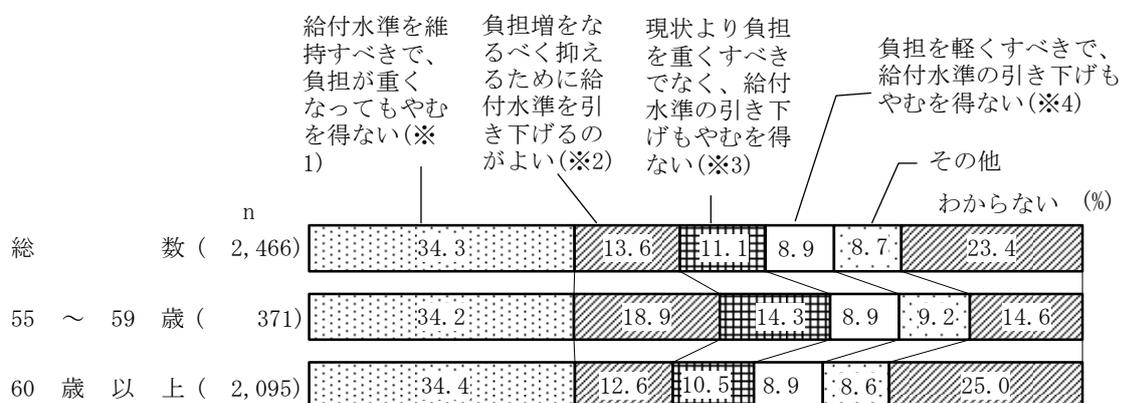
「今後の年金の給付水準と社会保障費負担のあり方についてどのように考えるか」尋ねてみると、総数では「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」が34.3%、「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」が13.6%、「現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない」が11.1%、「負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない」が8.9%などとなっている。

55～59歳では「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」が34.2%、「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」が18.9%、「現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない」が14.3%、「負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない」が8.9%などとなっている。

60歳以上では「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」が34.4%、「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」が12.6%、「現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない」が10.5%、「負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない」が8.9%などとなっている。

「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」は60歳以上より55～59歳で6.3ポイント高くなっている。また、「わからない」が55～59歳より60歳以上で10.4ポイント高くなっている。

図6-1-1 社会保障給付と負担(Q34)



(注)

(※1) 給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない：

「現在の年金の給付水準を今後も維持すべきであり、そのためには、今後、税金や社会保障費の負担が重くなっても、やむを得ない」

(※2) 負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい：

「今後、税金や社会保障費の負担が重くなっていくことはやむを得ないが、その上昇をなるべく抑えるために、年金の給付水準をある程度引き下げたりするのがよい」

(※3) 現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない：

「税金や社会保障費の負担を現在の水準より重くするべきではなく、そのために、年金の給付水準を引き下げたりしても、やむを得ない」

(※4) 負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない：

「税金や社会保障費の負担を現在の水準より軽くするべきであり、そのために、年金の給付水準を引き下げたりしても、やむを得ない」

#### 〈総 数〉（表 6－1－1）

都市規模別にみると、大きな差はみられない。

性別にみると、「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」では女性（30.9%）より男性（38.2%）で高くなっている。一方、「わからない」は男性（18.3%）より女性（28.0%）で高くなっている。

年齢別にみると、「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」は年齢が低くなるほど割合が高くなる傾向がみられる。一方、「わからない」は年齢が高くなるほど割合も高くなっている。

平均月収額別では、「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」は月収額が多くなるほど割合も高くなる傾向がみられる。一方、「わからない」は月収額が少なくなるほど割合が高くなる傾向がみられる。

現在の貯蓄額別では、「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」は『1,000万円以上（計）』（18.7%）で高くなっている。

#### 〈55～59 歳〉（表 6－1－2）

都市規模別にみると、大きな差はみられない。

性別にみると、「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」（男性 38.4%、女性 30.7%）は女性より男性で、「わからない」（男性 11.6%、女性 17.1%）は男性より女性でそれぞれ高くなっている。

平均月収額別では、該当数が少ないため、表の数値は参考値にとどめ、分析は控える。

現在の貯蓄額別では、「負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない」は『300万円未満（計）貯蓄なし含む』（15.0%）で高くなっている。

#### 〈60 歳以上〉（表 6－1－3）

都市規模別にみると、大きな差はみられない。

性別にみると、「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」（男性 38.2%、女性 31.0%）は女性より男性で、「わからない」（男性 19.5%、女性 30.0%）は男性より女性でそれぞれ高くなっている。

平均月収額別では、「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」は月収額が多くなるほど割合も高くなる傾向がみられる。一方、「わからない」は月収額が少なくなるほど割合が高くなる傾向がみられる。

現在の貯蓄額別では、「給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない」、「負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい」は『1,000万円以上（計）』で高くなっており、それぞれ 40.7%、17.2%になっている。

表6-1-1 社会保障給付と負担 (Q34)

(%)

総数	総数	給付水準を維持すべきで、負担が重くなってもやむを得ない	負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい	現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない	負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない	その他	わからない
【総数】	2,466	34.3	13.6	11.1	8.9	8.7	23.4
〔都市規模〕							
大都市	525	34.1	14.3	11.2	8.6	9.7	22.1
中都市	1,020	33.7	13.7	11.3	8.7	7.6	24.9
小都市	632	36.1	14.2	10.8	10.4	6.2	22.3
町村	289	33.2	10.4	10.7	6.6	15.9	23.2
〔性別〕							
男性	1,162	38.2	13.9	12.0	9.9	7.7	18.3
女性	1,304	30.9	13.3	10.3	8.0	9.5	28.0
〔年齢別〕							
55～59歳	371	34.2	18.9	14.3	8.9	9.2	14.6
60～64歳	584	35.3	14.9	13.4	9.4	10.6	16.4
65～69歳	483	37.5	12.0	10.1	9.7	8.7	21.9
70～74歳	435	32.9	13.8	8.3	8.5	9.2	27.4
75～79歳	343	31.8	10.5	9.3	7.9	6.4	34.1
80歳以上	250	32.4	9.6	10.0	8.0	5.6	34.4
60歳以上(計)	2,095	34.4	12.6	10.5	8.9	8.6	25.0
Q13〔平均月収額〕							
5万円未満	35	20.0	-	11.4	8.6	14.3	45.7
5万円～10万円未満	164	27.4	12.8	7.9	3.7	9.8	38.4
10万円～15万円未満	278	34.9	9.7	8.3	8.3	7.2	31.7
15万円～20万円未満	322	30.4	11.8	9.9	7.1	12.7	28.0
20万円～25万円未満	430	37.2	12.1	11.6	7.9	7.4	23.7
25万円～30万円未満	336	37.2	17.6	11.3	11.0	10.1	12.8
30万円～40万円未満	296	36.1	16.6	13.9	11.5	6.8	15.2
40万円～60万円未満	250	40.8	17.6	13.6	11.2	7.6	9.2
60万円～80万円未満	78	34.6	14.1	17.9	10.3	6.4	16.7
80万円以上	63	46.0	19.0	11.1	6.3	11.1	6.3
収入はない	24	16.7	20.8	4.2	16.7	4.2	37.5
わからない	190	24.2	8.9	8.4	7.9	7.4	43.2
20万円未満(計)収入なし含む	823	30.5	11.1	8.9	7.2	10.1	32.3
20万円～30万円未満(計)	766	37.2	14.5	11.5	9.3	8.6	18.9
30万円以上(計)	687	38.6	16.9	14.0	10.8	7.4	12.4
Q23〔現在の貯蓄額〕							
100万円未満	223	33.2	11.7	8.5	10.3	8.5	27.8
100万円～200万円未満	132	33.3	15.2	10.6	9.1	8.3	23.5
200万円～300万円未満	168	40.5	14.9	10.7	8.9	8.9	16.1
300万円～500万円未満	179	33.0	15.1	15.6	7.3	8.4	20.7
500万円～700万円未満	162	43.2	8.0	8.6	9.3	9.9	21.0
700万円～1000万円未満	199	34.7	13.6	17.6	7.0	10.1	17.1
1000万円～2000万円未満	273	37.0	15.8	13.2	7.7	7.7	18.7
2000万円～3000万円未満	169	42.0	19.5	9.5	10.1	8.3	10.7
3000万円～5000万円未満	99	36.4	24.2	15.2	11.1	8.1	5.1
5000万円以上	96	43.8	19.8	11.5	8.3	6.3	10.4
貯蓄はない	241	22.4	6.6	7.9	10.4	8.3	44.4
わからない	525	30.3	11.8	9.1	8.6	9.3	30.9
300万円未満(計)貯蓄なし含む	764	31.4	11.4	9.2	9.8	8.5	29.7
300万円～1000万円未満(計)	540	36.7	12.4	14.3	7.8	9.4	19.4
1000万円以上(計)	637	39.2	18.7	12.2	8.9	7.7	13.2

表6-1-2 社会保障給付と負担 (Q34)

(%)

55 ~ 59 歳	総数	給付水準を維持すべきで、負担が重くなってやむを得ない	負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい	現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない	負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない	その他	わからない
【 総 数 】	371	34.2	18.9	14.3	8.9	9.2	14.6
〔都市規模〕							
大都市	66	31.8	21.2	10.6	9.1	10.6	16.7
中都市	147	33.3	19.7	15.0	10.9	10.9	10.2
小都市	116	36.2	18.1	13.8	8.6	5.2	18.1
町村	42	35.7	14.3	19.0	2.4	11.9	16.7
〔性別〕							
男性	172	38.4	18.6	12.8	10.5	8.1	11.6
女性	199	30.7	19.1	15.6	7.5	10.1	17.1
Q13〔平均月収額〕							
5万円未満	3	-	-	33.3	33.3	-	33.3
5万円～10万円未満	17	17.6	29.4	23.5	5.9	5.9	17.6
10万円～15万円未満	23	39.1	8.7	17.4	4.3	8.7	21.7
15万円～20万円未満	27	37.0	22.2	7.4	3.7	11.1	18.5
20万円～25万円未満	36	36.1	27.8	13.9	8.3	2.8	11.1
25万円～30万円未満	42	16.7	16.7	19.0	11.9	16.7	19.0
30万円～40万円未満	60	36.7	20.0	15.0	8.3	6.7	13.3
40万円～60万円未満	80	45.0	18.8	10.0	7.5	10.0	8.8
60万円～80万円未満	31	25.8	19.4	22.6	9.7	9.7	12.9
80万円以上	21	38.1	14.3	19.0	4.8	14.3	9.5
収入はない	5	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-
わからない	26	38.5	7.7	-	19.2	7.7	26.9
20万円未満 (計) 収入なし含む	75	30.7	20.0	16.0	6.7	8.0	18.7
20万円～30万円未満 (計)	78	25.6	21.8	16.7	10.3	10.3	15.4
30万円以上 (計)	192	38.5	18.8	14.6	7.8	9.4	10.9
Q23〔現在の貯蓄額〕							
100万円未満	38	28.9	18.4	13.2	21.1	5.3	13.2
100万円～200万円未満	21	38.1	23.8	14.3	9.5	-	14.3
200万円～300万円未満	34	41.2	17.6	14.7	14.7	8.8	2.9
300万円～500万円未満	34	44.1	17.6	11.8	2.9	2.9	20.6
500万円～700万円未満	21	47.6	-	14.3	4.8	23.8	9.5
700万円～1000万円未満	31	35.5	16.1	29.0	3.2	6.5	9.7
1000万円～2000万円未満	47	29.8	29.8	12.8	6.4	10.6	10.6
2000万円～3000万円未満	20	45.0	20.0	15.0	15.0	5.0	-
3000万円～5000万円未満	14	21.4	42.9	7.1	-	28.6	-
5000万円以上	10	20.0	10.0	30.0	-	10.0	30.0
貯蓄はない	34	32.4	11.8	17.6	11.8	2.9	23.5
わからない	67	28.4	17.9	7.5	7.5	13.4	25.4
300万円未満 (計) 貯蓄なし含む	127	34.6	17.3	15.0	15.0	4.7	13.4
300万円～1000万円未満 (計)	86	41.9	12.8	18.6	3.5	9.3	14.0
1000万円以上 (計)	91	30.8	27.5	14.3	6.6	12.1	8.8

表6-1-3 社会保障給付と負担 (Q34)

(%)

60歳以上	総数	給付水準を維持すべきで、負担が重くなってやむを得ない	負担増をなるべく抑えるために給付水準を引き下げるのがよい	現状より負担を重くすべきでなく、給付水準の引き下げもやむを得ない	負担を軽くすべきで、給付水準の引き下げもやむを得ない	その他	わからない
【総数】	2,095	34.4	12.6	10.5	8.9	8.6	25.0
〔都市規模〕							
大都市	459	34.4	13.3	11.3	8.5	9.6	22.9
中都市	873	33.8	12.7	10.7	8.4	7.1	27.4
小都市	516	36.0	13.4	10.1	10.9	6.4	23.3
町村	247	32.8	9.7	9.3	7.3	16.6	24.3
〔性別〕							
男性	990	38.2	13.0	11.8	9.8	7.7	19.5
女性	1,105	31.0	12.3	9.3	8.1	9.4	30.0
Q13〔平均月収額〕							
5万円未満	32	21.9	-	9.4	6.3	15.6	46.9
5万円～10万円未満	147	28.6	10.9	6.1	3.4	10.2	40.8
10万円～15万円未満	255	34.5	9.8	7.5	8.6	7.1	32.5
15万円～20万円未満	295	29.8	10.8	10.2	7.5	12.9	28.8
20万円～25万円未満	394	37.3	10.7	11.4	7.9	7.9	24.9
25万円～30万円未満	294	40.1	17.7	10.2	10.9	9.2	11.9
30万円～40万円未満	236	36.0	15.7	13.6	12.3	6.8	15.7
40万円～60万円未満	170	38.8	17.1	15.3	12.9	6.5	9.4
60万円～80万円未満	47	40.4	10.6	14.9	10.6	4.3	19.1
80万円以上	42	50.0	21.4	7.1	7.1	9.5	4.8
収入はない	19	15.8	15.8	-	15.8	5.3	47.4
わからない	164	22.0	9.1	9.8	6.1	7.3	45.7
20万円未満(計)収入なし含む	748	30.5	10.2	8.2	7.2	10.3	33.7
20万円～30万円未満(計)	688	38.5	13.7	10.9	9.2	8.4	19.3
30万円以上(計)	495	38.6	16.2	13.7	11.9	6.7	12.9
Q23〔現在の貯蓄額〕							
100万円未満	185	34.1	10.3	7.6	8.1	9.2	30.8
100万円～200万円未満	111	32.4	13.5	9.9	9.0	9.9	25.2
200万円～300万円未満	134	40.3	14.2	9.7	7.5	9.0	19.4
300万円～500万円未満	145	30.3	14.5	16.6	8.3	9.7	20.7
500万円～700万円未満	141	42.6	9.2	7.8	9.9	7.8	22.7
700万円～1000万円未満	168	34.5	13.1	15.5	7.7	10.7	18.5
1000万円～2000万円未満	226	38.5	12.8	13.3	8.0	7.1	20.4
2000万円～3000万円未満	149	41.6	19.5	8.7	9.4	8.7	12.1
3000万円～5000万円未満	85	38.8	21.2	16.5	12.9	4.7	5.9
5000万円以上	86	46.5	20.9	9.3	9.3	5.8	8.1
貯蓄はない	207	20.8	5.8	6.3	10.1	9.2	47.8
わからない	458	30.6	10.9	9.4	8.7	8.7	31.7
300万円未満(計)貯蓄なし含む	637	30.8	10.2	8.0	8.8	9.3	33.0
300万円～1000万円未満(計)	454	35.7	12.3	13.4	8.6	9.5	20.5
1000万円以上(計)	546	40.7	17.2	11.9	9.3	7.0	13.9